

弥生町区（屋台）

もっとも古くその姿を完全に残す屋台は、弥生町区の住民が 1924 年に建造したものです。熊谷うちわ祭で用いられる 5 つの屋台（山車より小さい神輿）のうちの 1 つで、その姿を完全に残す最も古い神輿です。側面の彫刻はきめ細かく、亀、鶴、クジャクといった縁起のいい動物や、日本の創造神話の場面が描かれています。前面には、湾曲した切妻の下に精巧に曲がりくねった竜が一休みしており、前面の支柱を 2 匹の竜が登っています。切妻の上の彫刻には、八岐大蛇（やまたのおろち）から姫を救う、海と嵐の神、須佐之男命（すさのおのみこと）が描かれています。この神輿は、熊谷市の有形民俗文化財に指定されています。